

「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」事業 後半期間も着実に取組を展開しています

「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」は、昨年度末の中間評価で、①連携機関全体が女性研究者の在職比率や上位職登用に係る目標を達成したこと、②北東北地域の教育研究機関、企業、自治体を巻き込んで女性研究者支援ネットワークを構築したこと、③教員人事選考における「ダイバーシティレポート制度」、メンターシッププログラム、地域の銀行と協働した学内保育所の運営、病児・病後児保育の費用補助を盛り込んだ連携機関による覚書の締結等の先駆的な取組を積極的に行ったこと等の点が高く評価され、最高位のS評価を得ることができました。

本事業は、自走期間となった4年目も、6機関の強力な連携の下、継続的な取組を開始しました。5月23日には、岩手大学において、第7回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議が開かれ、代表機関・共同実施機関の総括責任者(一部、代理を含む)が、後半3年間の取組方針や今年度の主要な取組のひとつである「北東北女性研究者 研究・交流フェア 2019」の実施について審議しました。会議では、女性研究者の在職比率の数値目標達成を事業の最重点事項とすることが改めて確認された他、新たに、事業の進捗状況を明示化するためのデータ収集等に取り組むことが了承されました。

これを受け、6月24日には、各機関の実施責任者等を委員とする第11回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会が開催され、データ収集の仕組みづくりや、共有・公開に向けた具体的な方策について協議が行われました。また、事業計画に基づく、各取組については、女性研究者を研究代表者とする共同研究支援やライフイベントを経験した研究者の登用が促進される業績評価等が主な協議内容となりました。



本事業参加機関の ネットワーク会議を開催しました

7月5日、岩手大学が事務局を務める「いわて女性研究者支援ネットワーク会議」が開催され、14名が出席しました。本ネットワークは、地域における女性研究者の研究活動支援や育成・裾野拡大等を連携して推進することを目的に、2016年に設立、本事業の参加機関にも位置づけられています。会議では、岩手大学の宮本ともみ副学長よりダイバーシティ研究環境推進の動向等についてのプレゼンテーションや、構成する12機関から女性研究者支援の取組実績や計画についての報告があり、情報・意見交換が行われました。

第2回アドバイザリーボード委員会を 開催しました

「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の取組を外部から検証し、実効性のある事業とするため、本事業では、取組に見識を持つ4名の委員からなるアドバイザリーボードを設置しています。前半の成果検証と、後半に向けた助言を得るため、2019年3月に第2回の委員会を開催しました。

委員からは、計画の順調な達成が評価される一方で、各種のデータ整備等、取組のプロセスにおける成果の見える化に向けての指摘がありました。評価については、各機関の総括責任者に報告し、今年度の取組に反映させています。



2019年度共同研究支援の採択課題が決定しました

今年度、女性研究者を研究代表者とする共同研究支援を実施する連携機関は、岩手大学、弘前大学および一関工業高等専門学校で、合わせて10件の研究課題が採択されました。

2019年度共同研究支援 採択課題一覧

	研究課題	研究代表者・所属部局	共同研究者の所属機関 (代表者と同一機関を除く)
岩手大学	宮沢賢治の海外受容から考える岩手における文学ツーリズムとその可能性	高橋 愛 人文社会科学部	八戸工業高等専門学校
	誘電ガラスCa(Mn,Sb)O ₃ の磁気誘電効果と異方性	谷口 晴香 理工学部	弘前大学
	鉱物を用いた畜産排水中の抗菌性物質の除去に関する基礎的研究	石川 奈緒 理工学部	岩手県環境保健研究センター
	タンパク質酸化能を有する糸状菌由来新規オキシダーゼの諸性質解明と応用の検討	山田 美和 農学部	弘前大学
弘前大学	地表面露出年代値から推定する断層活動度を用いた地熱開発地域の探査法の開発	若狭 幸 地域戦略研究所	東北化学薬品株式会社 岡山大学
	植物における細胞分裂軸の制御機構	笹部 美知子 農学生命科学部	岩手大学
	線虫Caenorhabditis elegansを用いた食品成分の機能性評価	山元 涼子 農学生命科学部	岩手大学
	RNAフェージQβ由来RNA複製酵素の進化分子工学手法による改良	柏木 明子 農学生命科学部	岩手大学
	カシス由来エクソソーム様粒子(ENP)を用いた新規食品機能性成分の解明	堀江 香代 保健学研究科	八戸工業高等専門学校
一関工業高等専門学校	カシス残渣を使ってお茶をつくる	中川 裕子 未来創造工学科化学・バイオ系	弘前大学 八戸工業高等専門学校

管理職を対象としたセミナーを開催しました

2019年度男女共同参画推進管理職セミナー

「ダイバーシティ研究環境実現に向けて一資源とネットワークを有効に活かして一」

- 日 時：2019年5月23日(木) 14:00~14:45
- 会 場：岩手大学事務局 第一会議室
- 講 師：山村 康子 氏(国立研究開発法人科学技術振興機構 プログラム主管)
- 対 象：北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議構成機関、参加機関の管理職ほか
- 参加者：38名



講演では、日本の女性研究者の状況、関連する国の施策・事業の成果と今後の課題の概括や、国内諸機関の女性研究者の採用・登用促進と研究環境整備の取組の好事例が紹介され、本事業後半の取組への期待で締めくくられました。

参加者
アンケートより

- 数値目標の根拠がわかり、あとはやるだけだと思った。(役員・副学長)
- 基礎データ、国の取組の流れから、各機関の好事例を知ることができ、大変参考になった。(教員)

「キャリアを考えるための交流会」を開催しました

株式会社ミクニは、女子学生のキャリア形成支援へのニーズを踏まえた取組として、女子学生と女性研究員との交流を図る目的で、昨年度に引き続き、連携4機関(岩手大学、弘前大学、八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校)を会場として交流会を開催いたします。

今年度第1弾の「キャリアを考えるための交流会」は、7月9日(火)岩手大学にて開催されました。理工学部システム創成工学科機械科学コース3年生を主な対象とし、女子学生を含む76名の学生が参加しました。前半は、株式会社ミクニ 唐澤 利夫開発本部長が特別講義を行い、後半は、岩手大学卒業生である同社照井 茜センサ技術第2グループ開発員も登壇し、学生からの質問に答えました。

参加者
アンケートより

- 様々な製品開発に携わっている方の話を聞くことが出来、仕事の内容がイメージしやすかった。
- 機械系の学生に合わせた内容だったため分かりやすく、また自動車業界に興味が高まった。
- 企業がどのような人材を求めているか、それに対し自分が何をすればよいか分かった。



(株)ミクニ インタビュー ～本事業に取り組んだ3年間の振り返り&今後の展望について～

今回は、連携機関として本事業に積極的に関わっており、昨年、厚生労働省より「えるぼし認定」最高位3を取得した、株式会社ミクニのお二人に、岩手大学宮本副学長がインタビューを行いました。これまでの振り返り、および今後の展望について、企業の立場、女性研究者の立場からお話していただきました。

- インタビュー：横澤 文隆(株)ミクニ 開発本部機能要素コンポーネント技術部 部長
福井 輝美(株)ミクニ 開発本部機能要素コンポーネント技術部 センサー技術グループ グループリーダー)
- インタビューア：宮本 ともみ(岩手大学副学長、男女共同参画推進室長)



宮本：本事業の連携機関で唯一の企業として、3年間事業に関わられて、いかがですか？

横澤：岩手大学からこの事業参画のお話があったのは、2016年に国が女性活躍促進を大きく掲げた時期でした。企業として目標設定や活動の必要性を感じていましたが、具体的なポイントが全くわかっていませんでしたので、事業に参画し産学共同という枠組みの中で、情報提供を受けながら取組を進めることができたのは、とても良かったと思います。もう一つは、独自で進めるよりも、社内に取組の必要性の認識が早く浸透したことです。実際に、成果も出ましたし、上位職登用も進みました。

宮本：ご苦労もありがとうございました。いかがですか？

横澤：苦労した点は、3年間という、この短い期間で女性の上位職登用の目標を達成することでした。当社は自動車機器メーカーで、もともと女性が少ない分野です。その課題解決の一步として、企業説明会やインターンシップに力を入れ、女子社員を増やすところから着手していますが、現状では管理職候補となる対象者が非常に少ないので、正直なところ、とても厳しいものがありました。また、実際の活動レベルを、既に実績のある連携機関と合わせる点も苦労したところで。

宮本：そうですね、採用数にも限りある中で、いきなり目標値を掲げて連携いただくことは相当なご苦労をとまったことと思います。ご尽力に敬意を表します。事業はあと3年続きます。岩手大学では、支援の対象者の裾野拡大、そしてエリアの拡大を考えておりますが、貴社では今後の3年間で事業をどのように活用していきたいとお考えですか？

横澤：今後は、女性だけではなく、外国人登用やシニア採用などによりいろいろな人たちが集まり、誰もが働きやすく活躍できる企業となるよう、本当の意味での「ダイバーシティ」支援を考えています。これからの時代は、女性、外国人、シニアなど、多様な人たちの活躍がないと企業活動のレベルは落ちてしまいます。働く人の思いはさまざまですし、企業はうまくそこにフォーカスながら、「ダイバーシティ」の概念で企業活動を展開する必要があるでしょう。この取組は簡単ではありませんが、これまでに培ったノウハウを活かしたいと思っています。

宮本：福井さんは、一研究者として、本事業にどのように関わってこられましたか？具体的にどんな支援がよかったか、悪かったか、率直にお聞かせください。

福井：共同研究支援は、今まで進められなかった研究を後押ししてもらえましたし、おかげで特許出願もできたので、ありがたかったです。ただ、企業と大学とでは研究体制や考え方が異なることが多く、必ずしもスムーズに進んだわけではありません。例えば、企業の開発研究では、作業性の良否、製品化のコストなどの視点や、ロバスト性のある実験系が重要ですが、大学の研究は、テーマの新しさとレベルを重視し、いい方向が見えればピンポイントでそこに向かって進みます。これらの違いは、お互いの立場が異なるので当然ですし、逆



左から福井リーダー、横澤部長、宮本副学長

に面白いと思いました。

宮本：なるほど～、それは面白いですね。大学の研究も、この頃は分野によっては実利や効率性のことが言われたりしますので、きっと大学の先生も、企業と共同研究することで視野がかなり広がったと思っていることでしょうね。

福井：いろいろな研究者と知り合いになり、通常では交流することのない分野の方もお話する機会ができました。ネットワークは広がっています。事業に参画してよかったというのが率直な感想です。

宮本：福井さんは、研究者でもあり、事業の実務も担当していらっしゃるんですよね。

福井：はい、JSTとの連絡・調整、帳票類の整備など未経験な業務もありましたし、業務量はだいぶ増え、負担感は何とも…、でも、結果的には楽しかったですよ(笑)。

宮本：そうなんですね、それはご苦労様でした。では、今後の本事業に期待することは何ですか？

福井：企業として高校生や保護者層にアピールできる場があると良いと思います。当社の企業説明会で、「女性が研究職に就いて何ができるのですか？」と聞かれることが多いのです。大学進学まではイメージできるけど、その先となるとイメージが湧きにくいようです。裾野拡大の点からも、企業にも女性研究者の活躍できる場があることをもっと知ってほしいと思います。

宮本：では最後に、若手の女性研究者と未来の女性研究者に伝えたいことを、ひとことお願いします。

福井：やってみましょう！わがまを言いましょ！ですね。できない理由を並べるのは簡単だけど、諦めないでやれる方法を考えて、ひとつずつやってみましょうよ、って伝えたいです。また、(株)ミクニに興味を持ってくれる方やインターンシップ希望者がどんどん増えてくれると嬉しいです。



「連携機関独自の取組の中から「ダイバーシティ北東北の未来を先導」に関連する取組を紹介します」

「岩手大学 女性のキャリア形成支援リカレントプログラム2019」スタート

岩手大学では、県内事業所で働く、将来リーダーとなることが期待される女性社員・職員を対象に、女性のリーダー育成を特色とした「キャリア形成支援リカレントプログラム」を開催しています。今年度は、全4回開催とし、受講者29名でスタート、第2回までが終了しました。受講生が毎回記入するフィードバックシートには、「自身のキャリアに目を向け、自分の仕事・家庭・地域を含めた生き方に対し自信を持って進んでいきたいと思った」「ロールモデルの話から前向きなエネルギーをいただいた」など好評のコメントが多数寄せられています。

開催日(13:30~16:00)	内容(各回とも、一部一般公開あり)
第1回 6/17(月)	開講式、講義「ダイバーシティと女性のキャリア形成について」、オープニングガイダンス、ネットワークカフェ(グループトーク)
第2回 7/8(月)	ワークショップ「他社事例&ロールモデルから学ぶ」ネットワークカフェ
第3回 9/9(月)	講義「現代日本で働くということー『働きやすい職場』づくりを考えるー」ロールモデル紹介(数名)、ネットワークカフェ
オプション 9/26(木)12:00~13:00	ランチ交流会 (「北東北女性研究者 研究・交流フェア」と同時開催)
第4回 10/21(月)	リーダーのためのコミュニケーション研修、研修成果報告、閉講式、ネットワークカフェ



弘前大学「弘前市女性活躍推進企業」に認定



7月10日、弘前市役所市長室において弘前大学への女性活躍推進企業認定証授与式が行われました。「弘前市女性活躍推進企業」制度は2017年度に弘前市が整備したもので、女性活躍を推進する目的から、女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業等を対象として、申請に基づき認定基準を満たしていると認められた場合に認定されるものです。弘前大学は今年3月に申請し、5月21日に認定されました。

授与式では、櫻田宏弘前市長から佐藤敬弘前大学長に認定証が授与されました。授与式後には、佐藤学長と、内閣府の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に青森県で唯一賛同している櫻田市長の間で、この宣言をはじめとするよりいっそうの女性活躍、男女共同参画推進の取組について懇談が行われました。



今後の開催案内

「北東北女性研究者 研究・交流フェア2019」

- 日時：2019年9月26日(木) 10:30~14:20
- 会場：岩手大学農学部総合教育研究棟ばらんホールほか
- 内容：◎共同研究紹介・ポスターセッション
◎交流会
◎研究リーダー力向上支援セミナー「女性研究者40年の気概」
- 講師：菅原 悦子 氏 (岩手大学名誉教授、前理事)
- 対象：「北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議」「いわて女性研究者支援ネットワーク」「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」構成機関、関係機関、企業等の女性研究者・技術者・大学院生、テーマに関心のある方等



※同日、「北東北国立3大学連携推進会議連携協議会 男女共同参画シンポジウム」が同会場にて開催されます。

- 日時：2019年9月26日(木) 14:40~16:45
- 会場：岩手大学農学部総合教育研究棟ばらんホール
- 内容：基調講演
「多様な人材が活かされる大学へ 女性研究者支援からの展開」
- 講師：江原 由美子 氏
(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授)
- パネルディスカッション：
「大学における男女共同参画とダイバーシティ」
- パネリスト：
近藤 克幸 (秋田大学理事・総括副学長)
石川 隆洋 (弘前大学理事・副学長)
岩淵 明 (岩手大学長)



【連携機関】

- 代表機関 国立大学法人 岩手大学
共同実施機関 国立大学法人 弘前大学
独立行政法人国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
独立行政法人国立高等専門学校機構 一関工業高等専門学校
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター
株式会社 ミクニ

【発行者】

- 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議
事務局 岩手大学 男女共同参画推進室
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8
Phone 019-621-6998 Fax 019-621-6999
E-mail equality@iwate-u.ac.jp

